

地域と共に生きる学校をめざして

～道志川とのかかわり・水源林の見学〔上下流域交流事業〕～

相模原市立青根小学校

1. 実践の内容

本校は神奈川県西端、大室山を境に山梨県に接している青根地区に位置している。丹沢の山々とそこを水源とする道志川が流れ、水と緑豊かな自然に囲まれた全校児童13名（平成24年度）の小規模校である。日頃から地域の自然を活かして様々な学習活動を展開している。地域の過疎化、少子化、高齢化の現状における学校として、地域振興との関わりの中で教育活動を展開することが求められている。今年度は、上下流域小学校等交流事業の支援を受け、市内の宮上小学校と交流し、水源林の見学をしたり、道志川河川事業の一環として、鮎の放流を体験したりした。また、麻布大学の学生と連携して生物多様性の調査など、環境に目を向ける活動も行っている。

2. 実践の内容と成果

(1) 上下流域小学校等交流事業

相模川の上下流域の小学生が相互に交流をしながら、特色ある体験を通して、水源地域や水源環境保全の重要性の理解と、自然への関心を深めることを目的として実施した。互いの学校・地域のことを理解し合い、交流を図ることができた。水源林では湧き水を飲み、森林の役割と枝打ちなどの手入れの重要性を知ることができた。また、手入れされた里山の清々しさを味わった。具体的内容は、①学校の紹介 ②木造校舎の見学 ③水源林での枝打ち作業の見学 ④水源林の観察 である。



(2) 道志川河川事業に参加

子どもたちに自然を大切にする気持ちを育み、河川の環境整備につなげることをねらいとして実施した。バケツにアユとヤマメを入れてもらい、4000匹あまりを放流した。ダム建設前後の道志川の変化を地元の方から聞いた後、川の恵みであるヤマメの塩焼きを味わった。ダムによって環境が変化したことには驚きを感じるとともに、魚のたくさん住む川になってほしいという願いを持つことができた。



(3) 生物多様性の調査

自分の住む地域の自然の素晴らしさに気づき、地域での活動や将来についての考えを持つことをねらいとして実施した。麻布大学のあざおね社中の協力を得て、学校林「あおりん」のグリーンマップづくりから始めた。作成したマップを市の環境まつりやエコプロダクツ2012で発信し、意見をもらうことで理解を深めた。



3. 今後の課題

課題は、他地域の自然環境等を観察し、自分の地域と比較することである。そこから生まれる問題や課題を追究していくことにより、さらに自然及び地域理解を深めることになる。このような探究的な活動を通して、地域に対する親しみと愛情を深め、自己の生き方（自らの生活のあり方を見直し、実践するとともに、地域の一員としての自覚を持ち、地域の活動に参加すること）を考え、実践するように指導・支援していきたい。